

日本とのつながりの深い中国を読む

福岡県北九州市立古前小学校 庄 展彦

1 中国は近くて、遠い国？

「中国は近くて、遠い国」と言われる。

日本は中国と地理的に近く、歴史的・文化的・経済的に密接な関係を持ちながらも、相互理解が深まりにくく、遠い国のイメージがある。

地図帳をもとに、子どもたちにつながるの深い中国を読み、身近な国へと誘いたい。

2 地理的位置からつながりを読む

地図帳p.47を開く。中国は東アジアのユーラシア大陸東岸に位置し、その国土の大陸部は中国大陸とも呼ばれ、国の海域内には5400

の島が散在し、広大である。中国は北朝鮮、ロシア等、14か国と隣接し、海を挟むと、ギネスによれ



『楽しく学ぶ小学生の地図帳(初訂版)』p.47

ば最も多くの国と国境を接している国である。人口の94%を占める漢民族のほか、チベット族やウイグル族等、55の少数民族よりなる多民族国家でもある。🐼の絵記号をもとに4400余種の脊椎動物、100余種の中国特有の珍しい動物が生息している事実も調べると驚く。

さて、この東アジアの地図を左回りに90度回転させ、東を上とし、北京を中心に地図を読む。北京から日本を見ると、日本は北海道から南西諸島までを領土とし、まるで中国が被る帽子のような存在となる。地理的位置が歴史への影響と現在の確執につながっている。

3 歴史的・文化的なつながりを読む

地図帳p.50を開く。日中を結ぶ道は地理的

に見ると、大陸から朝鮮半島經由、南西諸島の海路経路がおもな経路である。それは紀元前3～2世紀頃に稲作が伝わった所まで遡る。中国



p.50

と日本は二千年にもおよぶ友好往来の歴史がある。しかし、近代百年の歴史は戦争、侵略という暗い面もあった。歴史を考える際、子どもたちに、日本はアジア東端の島国であることを意識させ、文化や物が伝わった道や遣隋使の航路等を考え、以下の視点から深め、つながりを調べさせたい。

- ①日本と中国との交流をモノ・ヒト・コトを中心に調べる。人(使節)や物(交易品)が技術、文化を交流し、事(事件・戦争など)が国の動きをつくり、歴史を展開していくこと。
- ②日本に現れた中国を調べる。歴史上著名な人物による中国とのかわりやつながり、影響など。
- ③中国の中に現れた日本に着目し、調べる。

4 経済的なつながりを読む

2008年の8月8日から北京を主会場として第29回夏季オリンピックが開催される。五輪開催は急速に台頭する中国の象徴である。経済的發展と連動する貿易は飛躍的に伸び、p.47の👔や📺、👉の絵記号だけでなく、現在中国は、日本の輸出相手国では米国に次いで第2位、輸入相手国では第1位の地位を占めている。輸入では肉魚・野菜などの加工品を含む調製食料、衣類や編物、とくにユニクロのような日本企業による開発輸入も含め、人的交流の面でも拡大し続けている。しかし、中国の急速な工業化により、九州北部から関東まで20都府県以上で観測された光化学スモッグは中国大陸で発生したオゾンが主原因とも言われ、越境汚染が問題となっている。日中交流による地球規模での環境への改善がつながりを深めていく上で課題でもある。